

No.	作家名	作品名	形式	材料・技法
A	北嶋 勇佑〔招待作家〕	きりん	版画	木版モノタイプ (油絵具、黒紙、アルミ蒸着紙)

見上げる高さの大きなアミメキリンは羽村市動物公園でも人気ものです。閑静な住宅街のすぐ近くにこれだけ大きな動物がいるということが、いつでも驚かされます。

	ひつじ	版画	木版モノタイプ (油絵具、黒紙、アルミ蒸着紙)
--	-----	----	----------------------------

モコモコの毛で覆われたヒツジ。愛らしい雰囲気ですが、意外と目は人を見透かすような鋭さを感じました。

	みーあきゅと	版画	木版モノタイプ (油絵具、黒紙、アルミ蒸着紙)
--	--------	----	----------------------------

首を傾げて、尾を支えにして立つ姿がとても可愛らしい印象です。よく見ると顔もどこか人間らしく、少し不気味さを感じるほど。

	うさぎ	版画	木版モノタイプ (油絵具、黒紙、アルミ蒸着紙)
--	-----	----	----------------------------

愛らしいウサギはいつでも平和な気持ちにしてくれます。構図は想像で描いた親子ウサギです。

B	造形ワークショップ	はむらのひかり	立体	牛乳パック、半紙、LED キャンドル
C	記録班 (中村 心咲)	羽村ゆとろぎアーツプロジェクト記録映像	映像	映像

羽村ゆとろぎアーツプロジェクト 2022

プリモホールゆとろぎ (羽村市生涯学習センター) × 武蔵野美術大学芸術文化学科 協同企画 展覧会

「i (アイ) ~ 私とあなたと羽村、視線を交わすということ ~」 出品目録

会場：羽村市生涯学習センターゆとろぎ・1 階展示室

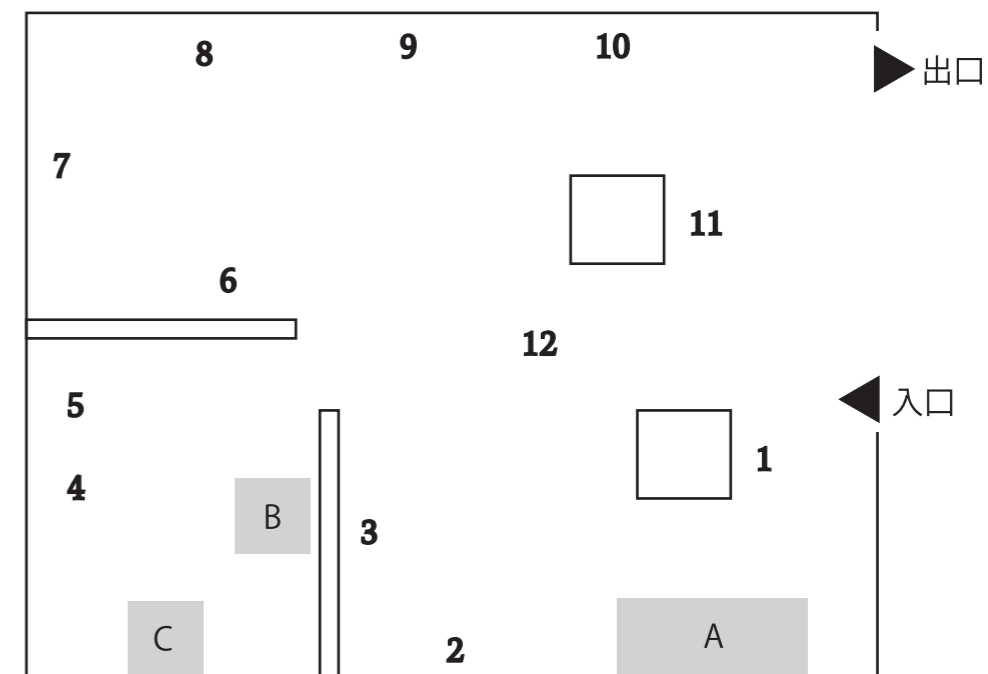
会期：2022 年 12 月 17 日～2022 年 12 月 25 日

主催：武蔵野美術大学 造形学部 芸術文化学科研究室 共催：羽村市教育委員会

出品者：武蔵野美術大学芸術文化学科学生 10 名、北嶋勇佑 (版画家、招待アーティスト)

企画運営：羽村ゆとろぎアーツプロジェクト 2022 (武蔵野美術大学 造形学部 芸術文化学科)

会場マップ



No.	作家名	学年	作品名	形式	材料・技法
1	星島 遼太郎	1 年	羽村昔話	絵本	クレヨン、紙

私は今回絵本を制作しました。今回の絵本はすべての場所に歴史があり、その中にいくつもの物語があることを古いものの多く残る羽村という土地から感じ制作しました。この絵本を読んで自分の周りにある物語を想像し、自らを形作るたくさんの「昔話」を感じていただきたいです。

2	塚本 京子	1 年	たからもの	絵画	布、糸、パネルアクリル、クレヨン
---	-------	-----	-------	----	------------------

“ひろいたい さわりたい ならべたい 初めて来た場所で、初めてではない感覚を思い出す”
私にとって羽村は幼心を思い出させてくれた街です。落ち葉や石ころが光りだして私に何かを訴えかける、そんな忘れかけていた心の動きを少しだけ取り戻すことができました。布や糸を用い表現したのはそんな懐かしい感情です。

No.	作家名	学年	作品名	形式	材料・技法
3	馬場 麻帆呂	1年	水郷	絵画	ジェルメディウム・アクリル、スチレンボード

水郷、それは河川、水をはじめとした自然に恵まれた景勝地。私はこの街に足を踏み入れた際、神秘を感じました。長閑な街、豊富な緑、そして日が暮れたあとの静けさ。日に当てられた町は安息の夜に眠り朝を待つ。時の流れを忘れ、渦のように巻き取られる時間はまるで一瞬のようでした。太陽の下では美しく輝き、月の下では静かに眠るこの町はまさに景勝の地、水郷です。

4	吉田 岳竜	1年	ハムランプ	立体	和紙、針金
---	-------	----	-------	----	-------

「ハムランプ」という名前を最初に思いついたのでこの作品を作りました。土台に針金で骨組みを立て、和紙で巻きました。和紙と針金はのりを水に溶かした液体でつけています。ランプには上から緑色、桃色、青色の和紙を使っていますが、緑色は羽村の豊かな緑、桃色は羽村の人々、青色は羽村の水資源を表しています。豊かな自然産物に恵まれた羽村とそこに住む人々、それらの営みを照明で表現してみました。明るい気持ちになっていただけら嬉しいです。

5	吉田 岳竜	1年	まいまいずの神秘	絵画	ケント紙、コピックマーカー
---	-------	----	----------	----	---------------

羽村のまいまいず井戸の独特なロケーションから放たれる雰囲気は暗いわけでもなく、明るいわけでもない、でもどこか深みと重みのある空気感でした。井戸という場所なだけに、昔から多くの人々が訪れたと思います。それゆえ、まいまいず井戸には自然がありながら、独特の雰囲気が渦巻いているのかもしれないと感じました。また自然と人々を繋ぐ鳥居のような場所に思えました。主観ですがそれらのまいまいず井戸から感じたエネルギーの色や形をコピックマーカーで描き作品にしています。

6	天野 陽日	1年	風を感じて	写真／絵画	紙、写真、アクリル、水彩、クレヨン、鉛筆
---	-------	----	-------	-------	----------------------

初めて羽村に来た時、それは風の強い日だった。夏の暑さと秋の涼しさが混じり合っていた。羽村の街を歩く。シャッターをきる。絵を描く。そこに生きる人々の温かさに触れながら。そして時々、地元の匂いを思い出しながら。

7	百瀬 さおり	3年	風飾	立体	木製丸棒、ワイヤー、カラー銅線、フェルト、ミシン糸、ビーズ、アクセサリーパーツ
---	--------	----	----	----	---

この作品のコンセプトは「羽村らしさ、私らしさ」です。羽村の花鳥、オブジェをもとに私の好きな素材や風を感じられる形で表現しました。今回羽村を題材に作品を制作するにあたり、バードウオッチング、花いっぱい運動、シンボルのあるまちづくり。羽村には様々な活動があることを知り、自然とアートを大切に作る街であると感じました。そんな私が感じた素朴で美しく、そして暖かい羽村を感じてもらえたらと思います。

No.	作家名	学年	作品名	形式	材料・技法
8	百瀬 さおり	3年	空気	立体	アクリル、ブロード無地（生地）

はじめて玉川上水を見に行った日は小雨が降り、空は薄暗いグレーに染まっていました。周りには勢いよく流れる水、まばらにランニングや川釣りをしている人、また遠くの羽村大橋では車が走っていたのを覚えています。そして音はするけれど、どこか静かで冷たい空気がその場にはありました。この作品はそんなある日の玉川上水を通る空気をイメージしています。

9	中村 心咲	1年	王弁／蒼然／籠幻／影閃	立体	ジョイントマット
---	-------	----	-------------	----	----------

きりんの長い首は、星のひかりに届くようにながたくかく進化しました。その首で広くまわりを見渡したきりんは人々の暮らしをじっと見まもるようになりました。この展示のきりん「王弁」「蒼然」「籠幻」たちは、羽村市の人々がこの先もながく平穏な暮らしを送れるよう願いを込めて今もその首を高く保ち続けているのです。「影閃」はうまであり、きりんのように首が長くはありません。それは人々の暮らしを見まもるのではなく、彼らに寄り添い続けたからです。共に生きたからこそ平和を願うものとしてそこにいます。

10	横尾 美玲	1年	マイマイ羽村 Go! Go!	絵画	クレヨン、アクリル、紙
----	-------	----	----------------	----	-------------

「マイマイズ井戸」。初めて聞いたとき、これがどんなものか想像ができなかった。井戸なのにマイマイ？ カタツムリ？ 色々な想像が膨らんだ。実際行ってみると、カタツムリの殻のようなぐるぐるした道の先に神秘的な井戸があった。そうだ！ カタツムリをモチーフにして羽村で感じたものを描こう”と思った。カタツムリの殻は、それぞれの風や水、緑、雰囲気、伝統を表現した。羽村のそれぞれの色が伝わればいいなと思っている。

11	新井 愛依	1年	M-031	立体	石膏粘土、発泡スチロール、廃材
----	-------	----	-------	----	-----------------

今年で31年の歴史を刻む羽村市の昔からと今をつなぐ M-031。この作品は、羽村市のいつまでも残る美しい自然と新しい技術を生み出していく最新技術を使った株式会社ココロのロボットをモチーフにし、いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも新しく変化を重ねているものも取り入れていく羽村市の姿を立体で表現しました。

12	縫谷 春花	1年	異物混入	立体	布、糸、針金、アクリル
----	-------	----	------	----	-------------

羽村から感じる私の地元である鳥取の雰囲気、綺麗な自然、風、景色。それらはこの東京という街にあるには少し異質でこの羽村という場所が東京という都市にとって異空間、異物の様なものであるということを表現した。